

日本看護系大学協議会会員校教員を対象とした EBN に関する意識調査 (4) 質的研究方法に関する調査結果

○西山悦子 (にしやまえつこ)、高木廣文
(新潟大学医学部保健学科)

【目 的】 EBN に対する看護系大学教員の意識を調べるために全国調査を実施した。ここでは第3報に引き続き看護教育に関する調査結果の一部を報告する。

【対象と方法】 調査対象は、平成 13 年度の日本看護系大学協議会会員名簿に記載されている 3155 名とした。調査内容は、対象者の一般的属性(性、年齢、職位、専門領域など)、EBN に関する知識、授業・研究と EBN との関係に関する項目など 51 項目である。調査は、質問紙を用いた郵送法で行い、調査票の発送は平成 13 年 11 月下旬から 12 月上旬に行い、調査票の発送後約2週間後に調査の礼状兼督促状を送付した。調査票の回収は平成 14 年1月下旬まで行った。回収数は 1170 名であり、回収率は 37.1%であった。回答者は、男性 198 名、女性 961 名、性別不明 11 名、平均年齢は男性 51.1 歳(SD10.3 歳)、女性 41.7 歳(SD10.4 歳)であった。分析には主に HALWIN を用いた。

【倫理的配慮】 調査は個人への郵送法であるため回答は自由意志によっておこなわれている。また無記名式かつ調査項目の組み合わせでも個人が識別できないように配慮した。

【結 果】 質的研究で重要な分析方法は何かという質問に対して 328 名(28.0%)から 566 件の回答があった。最も多かった方法はグラウンデッド・セオリーで 28.4%, 次いで内容分析 12.5%, 現象学 11.8%, KJ法 7.6%, エスノグラフィ 5.5%, ケーススタディ 2.3%, エスノメソドロジー 1.8%であった。また分析方法以外の回答が 24.6%あった。その内訳は手順の名称 7.8%, 量的研究方法 6.2%, 学問の名前 1.1%, 他の専門用語 0.9%, 解析ソフト名を記載下もの 0.7%であった。

質的研究方法でよく用いる分析方法は何かという質問に対して 532 名から 1071 件の回答があった。最も多かった方法はグラウンデッド・セオリーで 29.2%, 次いで内容分析 15.9%, KJ法 13.7%, 現象学 10.5%, エスノグラフィ 5.4%, ケーススタディ 3.3%, エスノメソドロジー 1.2%, 参加観察法 1.1%, フォーカス・グループ 1.1%であった。また分析方法以外の回答が 16.4%あった。その内訳は手順の名称 6.4%, 他の専門用語 4.4%, 量的研究方法 3.7%, 解析ソフト名 0.2%, 学問の名前を記載したもの 0.6%であった。

【考 察】 質的研究方法としてグラウンデッド・セオリーが重要な方法として認識され、かつ良く用いられているが、質的研究方法が正しく認識されていないことも示された。今後、他の項目も含めて、更に詳細な分析を行う予定である(本研究の一部は、科学研究費補助金(平成 13・14 年度基盤研究C 課題番号 13672447, および平成 15 年度基盤研究B課題番号 15390660)による)。